

工学部「アジア循環型社会工学研究教育センター」の設置目的

(1) 必要性

急速なグローバル化や世界の大学間の競争が激化する中、優れた留学生の獲得や戦略的な国際連携により、国際競争力の強化、留学生等に魅力的な水準の教育研究環境を提供するとともに、国際的に活躍できる人材を養成することが急務である。また、新内閣の岡田外務大臣によって提案された「東アジア共同体」の構想に基づけば、中国やベトナム、ミャンマー、ラオス等の発展途上国々が益々重要になりつつある。こうした状況の中で、文部科学省などが、留学生を惹きつける魅力ある大学づくりとして、英語による授業の実施および学位取得が可能となる大学のグローバル化と受入れ体制の整備等に関する支援の重点化を表明している。その具体的な事業の一つとしては、「国際化拠点事業(グローバル30)」が今年度からスタートし、7つの国立大学および6つの私立大学が採択された。

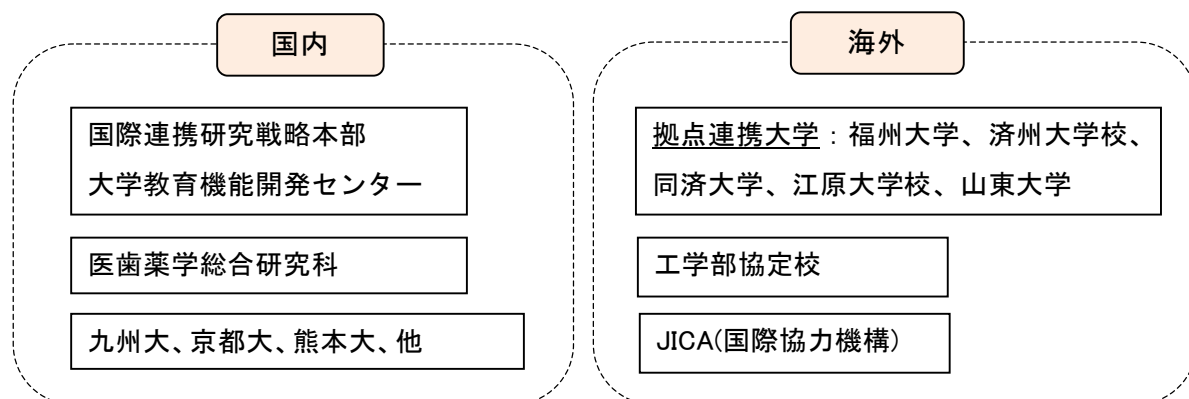
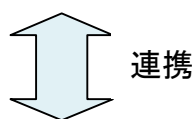
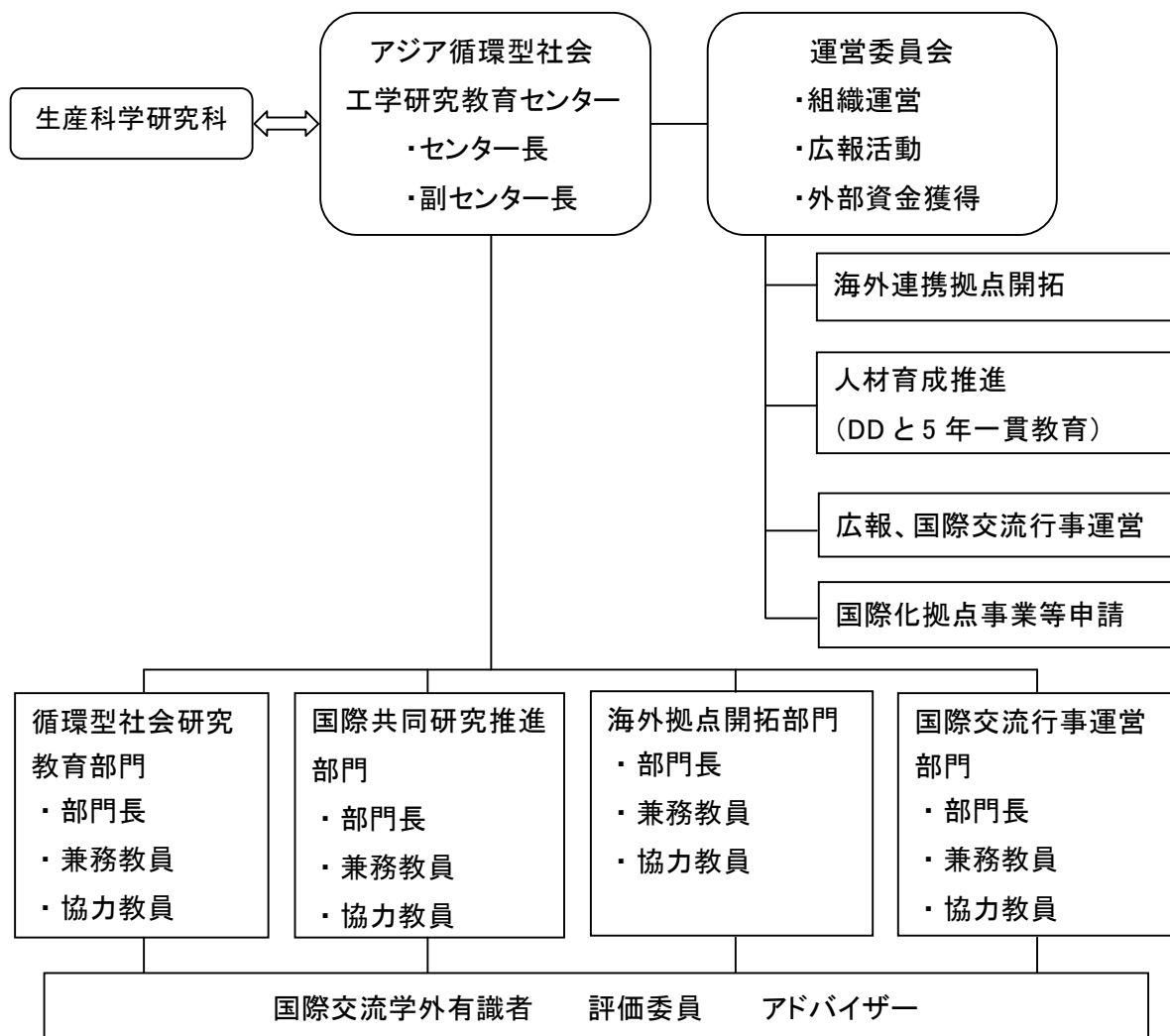
一方、アジアの発展途上国では経済の高度成長が継続する中で、環境破壊や環境汚染、社会基盤整備における技術力不足など、社会の持続的発展と快適な生活環境創出に対して影響を及ぼす数多くの難問を抱えている。これらの問題を解決するためには、高度な技術を有する人材育成を強力に推進することが国際協力の観点からも極めて重要である。

長崎大学の第二期中期目標・中期計画においては「アジア、アフリカ等の海外教育研究拠点における共同研究を推進するとともに、国際貢献・国際協力を目指す専門家人材育成コースを整備・充実させ、途上国の持続的発展に貢献する」ことが掲げられている。すなわち、国際競争力の強化とともに東アジアを中心とした地域社会のニーズに対して迅速に答えることを人材育成の目標としている。工学部では、これまで韓国や中国、インドネシアなど東アジア諸国の多くの大学と学術交流協定を締結して教育・研究の交流を積極的に展開してきた。その結果、学生の国際的な活躍の場も急速に拡大しつつある。一方、工学部所属の教員の指導に基づき学位を取得した留学生は、帰国して関連分野においても大いに活躍している。上記の目標達成のためには、こうした交流基盤を更に有効活用しながら、先進的な大学との教育研究交流ネットワークを再構築・強化するとともに、学術交流協定校との留学生の交流体制(双方向交流体制)整備と英語による授業等の実施、博士前・後期5年一貫教育を行う学際融合領域コースの新設が早急に取り組むべき工学部の課題である。

(2) 目的

以上の状況を踏まえ、本センターは、循環型社会創出のための創造的で先進的な国際共同研究開発を進めるとともに、アジア地域社会のニーズに対応する問題解決力を身に付けさせ、国際的な視点に立って行動できる優れた人材を継続的に育成する拠点の形成を目指すものである。特に循環型社会工学分野における途上国のリーダー的人材育成の拠点作りを実質的に進めていく。なお、現在までに実施された国際学術協定校との交流実績と信頼関係からは、優秀な留学生の推薦が大いに期待できる。

「アジア循環型社会工学研究教育センター」組織図



アジア循環型社会工学研究教育センター

組織構成と担当

センター長： 多田彰秀 教授

副センター長 兼 循環型社会研究教育部門長： 蔣 宇静 教授

同上 兼 国際共同研究推進部門長： 石松隆和 教授

同上 兼 海外拠点開拓部門長： 香川明男 教授

同上 兼 国際交流行事運営部門長： 辻 峰男 教授

兼務教員：

才本明秀 教授

中村聖三 准教授

奥松俊博 准教授

西田 涉 准教授

坂本麻衣子 准教授

杉本知史 助教

鈴木誠二 助教

アドバイザー：

高橋和雄 教授

棚橋由彦 教授

岡林隆敏 教授